

あさひ

(五ヶ庄桜町地区共同苗代作り)



編集兼発行 朝日町役場 印刷所 両越印刷 送料 6円 定価 6円

今年の夏季の天候の特徴と 稲作対策

稲の生育期間中が好ましくない気象の見通しであるのに加えて融雪が遅く水温も例年よりも低いことが予想されます。さいわいに四月中の天候は変動が大きかったが割台に順調であったのと、ビニール畑苗代の普及によって(朝日町の苗代の六割はビニール畑苗代と推定される。)苗の生育は例年より現在では遅れていない農作業も耕耘機の普及によって順調であるので、現在では心配されるこ

ないように。

一、大雪のあったその年は天候異変のおそれが多い。富山地方気象台で過去の大雪年と、その年の夏の気象を過去五十年間に九ヶ年の大雪年があり、そのうち三ヶ年は異常な大雨がみられ、反対にひどい旱魃年が三ヶ年ある。このように大雪のあったその年は異常な気象現象がみられるこのような気象の変動は冬季だけでおさまらず、夏まで余波が及ぶのが自然のなりゆきらしい。では今年は大雨の年になるか、旱魃年になるかは、夏がきてみなければわからないが暖候期(四・九月)長期予報の内容から今年はどうも雨の多い低温年の気配が濃厚で稲作にとって警戒を要する年らしい。すなわち梅雨期間と初秋には時々低温があらわれそうで、この低温はおそらく曇雨天を伴うことが考えられるから日照も少なくなる心配がある。また梅雨中や梅雨末期に大雨のおそれもある。二、不順な気象に対応するにはどうしたらよいか。

(1) 田植時期を遅らせ

り高収量で安定しているのは、ビニール畑苗代や保温折衷苗代による早植によって穂数が有利に確保され、その上稲作病害で最も大きいイモチ病が栽培面から発生が少なくなっているからである。草出来をよくするにはよい苗を適期に植えることです。

(2) 元肥、田植後の追肥を多くしないようにして倒さない作り方をしましょう。

朝日町は早生の作付が約七割あり、奨励品種のホウネンワセ、越路早生が殆んどであります。これらの品種は比較的倒れ易くなります。施肥設計によって全体の施肥量(窒素肥料)の二割を穂肥として七月上旬に施すように計画して下さい。加里肥料はむしろ多めに施すようにして下さい。

朝日農業改良普及所

農繁期の健康を守ろう

農家はこれから猫の手も借りたい程の農繁期に入りますが、とくに健康をそこねやすい時期ですから、二三日のついた事を申し上げてみます。まず農繁期中の食生活ですが、農村は一般に食物が片寄りがちで、都会にくらべて動物性蛋白、脂肪、ビタミンの摂取量が非常に少く、糖分が多い。しかも労働の多い農繁期でも特別な栄養を補給しないという矛盾がある。これは忙しいため食事の用意などに手が回らないのが原因だとはあまりないが、保温折衷苗代やビニール畑苗代に高温による障害が発生している。近年の稲作は以前よ

が農繁期の労働のはげしい時には、不眠の2倍程の栄養が必要なのです。からなるべく、魚、肉、卵の動物性蛋白質をとるように心掛けどうして多忙の時は、カン詰めやきせいひんを活用するのもよい。また主婦の手をばき労力を節約するために、できれば共同炊事にするのも一つの方法です。また疲労の蓄積が健康をそこねる原因ともなるので、忙しければなおさら休息をとることが大切で、しかも胃腸の弱い人には絶対に必要、このほかくろしい姿勢での農作業や、からだを冷やすことが、農村に多い腰痛症、腰曲りの原因になるからときどき体を休め、腰をのばしたり、長時間働かず、又入浴することも一日の疲れをいやす意味からも大切です。朝日農業改良普及所



大雪年夏季気象表 (富山地方気象台)

大雪年	気温対平年差 °C			降水量対平年差 mm			特異事項
	6月	7月	8月	6月	7月	8月	
大正7	-0.1	+1.3	-0.4	-9.5	+3.0	-36.8	雨多雨
昭和2	+0.3	+1.4	-0.5	+3.0	-108.9	+64.9	雨多雨
" 9	+0.9	-0.3	-0.8	-33.7	+7.3	+129.5	雨多雨
" 11	+1.1	+0.2	-0.7	-5.9	+45.0	-41.9	雨多雨
" 14	+1.3	+2.1	+0.4	-44.3	-67.4	-136.1	高温寡雨
" 15	+0.5	+1.5	-1.1	-54.5	-38.7	-11.7	寡雨
" 18	0.0	+1.2	+1.3	-41.6	-90.5	-108.9	寡雨
" 20	-0.7	-3.1	+0.9	+91.0	+30.4	+29.2	低温多雨
" 36	+0.2	+0.3	+0.2	+7.9	+355.0	+13.5	多雨
平年	19.9	24.3	25.9	108.4	140.8	190.4	

朝監第一三号

監査結果の公表について

地方自治法第一九条第三項の規定に基づき、朝日町税務課の監査を行ったので、その結果を同法同条第八項の規定により次のよう公表する。

朝日町監査委員

松原 三郎
坂口 良三

朝日町税務課 監査結果
一、監査年月日
昭和三十八年四月二十四日

二、事務の分掌

当課における事務の主な分掌は、町民税及び県民税の賦課徴収事務、土地評価事務等、これを課長の外十三名で担当している。

町税の種類は普通税で町民税、固定資産税、軽自動車税、煙草消費税、電気ガス税、木材取引税の六種類、目的税では入場税、水利地益税の二種類である。

三、事務処理に関する意見

事務の処理について各部とも適格に処理されていると認む。

四、事業の執行状況

株主になり配当金で暮せる身分になりたい、と誰でも思う。それが簡単に出来るからおもしろい、しかも自分が株主で息子が社員、やがて息子に株を譲って自分が隠居、息子が株主で孫が入社するとなれば棚からぼた餅どころではない札束が降って来たようなものである。

これが冗談やおどけでは無く本当の話だと云ったら「そんなしあわせな奴は誰だ」と目を丸くしておたずねになることであろうが、農業会社を作ればその夢が実現されるのです。小さな田圃を一生大事に守って、合せて大規模な土地基盤整備をして

事業の執行に当っては、年間計画に基づき進められ、特に滞納の処理については整理期間を定め滞納の一掃に努め好成績をあげつゝある。

また土地再評価については順次仕事を進められていくし従来の土地名寄帳をカード制に改め事務能率の向上を図っている。

次に課税客体の把握にはいろいろの角度から調査し、適正を期するよう努力されていることがうかがえる。

課税客体の把握には、さきに述べた通り努力されているが、今後とも賦課の適正を期するよう願いたい。

滞納についても善良な納税者に不満の念をいだかせぬように整理に layers の努力を望む。

次に現在土地の再評価事務が進められているが、更に九月からは、家屋の再評価の準備事務を要するとのことで現在の職員数では無理があるのではないかとと思われるから、当局においては検討されたい。

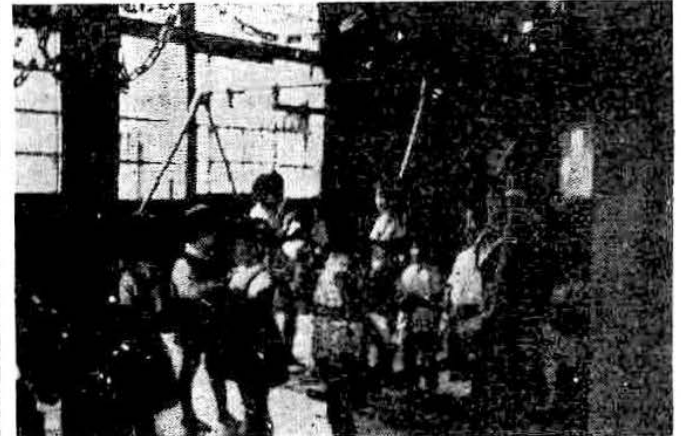
部落単位に共同で大型の機械化農業をやると、機械を操作する僅かな人員で大面積の農場管理ができるのです。種まきも稲の刈り取り調整も全部機械がやってくれるから人間の仕事はなくなり田圃の水のかけひきと病害虫の発生だけは注意しておればよい。真夏に四つんばいになって田圃をはい回らなくてもヘリコプターで農薬散布、お茶を飲みながらヘリコプターのあざやかな飛行ぶりを眺めているだけでOK、稔った頃にコンバイン(稲を刈り取ってすぐに脱穀する機械

早く株主になりたい

が刈り取り脱穀を同時にやってくれるまんだんブカーが農協へ持って行き直ちに乾燥して調整する。全部終わったところで株主総会を開いて出資(自分の耕地面積)に応じた米代金と飯米を配当して貰えば良い。

仕事好きの老人や女房族には気の毒だが仕事がなくなくなるから、老人クラブでも作ってリクレーションをやっておればいゝし女房族は栄養料理の研究会を開催して大いにスタミナをつける工夫をしてもらえばよいのである。

「でたらめ云々」とおこる人があるかも知れないが現代の農業はそうした方向に進んでいる。近年、流行語になっている農業構造改善とは先のべた共同経営、協業作業によりできるだけ労力を減らす。



～ 季節保育所開設 ～

田植もせまり農家も愈々多忙の季節となりました。そのため家庭におきましては子供達を充分保育出来なく監視が出来ず不慮事故等が毎年聞かれますので朝日町ではこの程子供達の健全育成を目的として各所に季節保育所を開設して居りますので希望者は御利用下さい。

開設場所

月山、殿町、辻、山崎新、下山新、藤塚、下野

毎月5の日は『税の相談日』

魚津税務署からのお知らせ

税務署では毎月五、十五、二十五日(五日の日が日曜祭日にあたるときはその翌日)の月三回「税の相談室」を設けて特に署の幹部が相談に応ずることになりました。

消防署だより

危険物取扱主任者試験について

一、試験の種類

乙種危険物取扱主任者試験 (第四類)

二、試験日時

昭和三十八年六月十六日 (日曜日)

三、試験場所

富山市、魚津市、高岡市、

四、願書受付期間

昭和三十八年五月一日から五月三十日まで

細部について不明の点は消防署におたづね下さい。

4月11日～5月20日
春の全国交通安全運動

日本体操祭朝日町大会

一、趣旨

日本体操祭全国大会の一環として日本体操祭第二回朝日町大会を開催し、町内各層に体操の実践を促進して、町民の体位向上に寄与する。

二、主催

朝日町、朝日町教育委員会、富山県教育委員会、富山県体操協会、朝日新聞社富山支局、NHK富山放送局

三、協賛

朝日町小、中学校、泊高校、連合青年団、連合婦人会、BS朝日第一団、保育園、日東紡績泊工場

四、参加者

小、中、高校生、婦人団体、青

少年団体、保育園児、勤労者、一般社会人

五、演技種目

徒手、機械体操、体育ダンス、遊戯、音楽パレード

六、会場

小丸山公園グラウンド

七、期日及時間

五月二十六日（日）午前八時半よりBS隊による鼓笛隊パレード、駅前より小丸山グラウンドまで、九時半開会式、十時演技開始、正午終了予定

（雨天の場合は二十七日、当日も雨天なれば中止）

以上のような要項で開催いたしますので、多数の御参加をお願いいたします。

当町の特別清掃地区におきましては、ごみごみが氾濫して町の美観を甚しく害し、環境衛生上非常に不衛生な次第で申し訳なく存じます。そこで簡単に今後の対策や要望について一言申し上げます。

周知のとおり昭和三十六年十月塵芥焼却場とは名ばかりの処理場を焼失しその後処理施設もなくあちこちと一時的に場所を換えては埋立或は投棄処理をして清掃地区の塵芥収集に当つて来ましたが、

このたび塵芥焼却場の新設工事も無事進んでおります。六月末頃には竣功し七月以降は今までの汚名を挽回し衛生都市の発展に努力いたす態勢を立てております。

塵芥処理対策について

そこで皆様要望協力願いたい点として

①道路、河、下水、用水などにゴミを捨てない事。

②台所から出る汚物は普通のゴミと区別してナイロン等の袋に入れて別にしておく事。

③塵箱には必ずフタをする事。

④町内にて下水清掃する際には自動車は配しますが作業については町内にて実施する事。

⑤近く塵箱の規格統制を実施致したく存じ近日中に役場窓口にて展示いたしますからご覧下さい。

以上の点については特に注意下さい。当分の間は週に一回程度、ゴミの収集に当たります。

（四）火力発電

戦前に於ける我が国の供給計画は水力発電を主体として火力発電は水力の過剰時に於ける補給用として考えられてきた。戦後電力の需要が増加し、水力だけでは賄いきれない状況となり、戦後産業の発展が進展するにつれて電力需用の増加が著しく、水力を主体とした供給体制はこれを賄うことができなくなり、漸次火力発電に設備資金が投入され現在では火主水従の型に置きかえられつつあります。

在来の火力発電は熱効率が低く、また燃料価格が高かったため、発電単価は水力に比べてかなり高いものであった。しかしながら電力需用の伸びは急速に度を加え、好むと好まざるに拘わらず火力発電による以外道はなくなり、遂に新鋭火力の登場をみたのである。わが国の火力技術は戦時中における空白があり、戦後は外国技術の導入を必要とし昭和二十八年に初めてアメリカより七万KWクラスの当時としては最新鋭の火力発電設備の導入をはかった。これを契機として、国内メーカーの技術も急速に進歩を遂げ、現在では二〇万KWクラスの大容量機器の国産も十分可能となったのであります。

このような新鋭大容量火力は熱効率も高く加えて最近の燃料価格低下によって発電原価も著しく低下して来たのであります。一方水力発電に於きましてはこれとは全く逆に漸次発電原価が上昇しその経済性が益々低下しつつあり戦前の火力発電と同様にピーク発電用としてのみその価値が認められなくなりつつある状況となっております。従って水力に依る発電電力量は益々小さくなりつつある反面火力発電は今後の技術革新に伴ない益々大容量化し運転のベイスを

火力に求めるためその発生電力も著しく増加の一途をたどっており、このような傾向は電力需要の急増に伴い益々強くなつて来るものと考えねばなるまい。

然しながら我が国の石炭産出量の経済的限界および石油資源の貧困から今後の火力発電用燃料が漸次海外の安価な石油に対する依在度を高めていくことは避けられない情勢であるが我が国のエネルギー政策上よりすれば石炭は国内資源であり、外資を要せず石油が遠く海外から来ることを考えればはるかに安定性があるとも云へるが、現在に於ける重油価格はカリオリ一当り八〇銭を割っており今後更に値下りの傾向が続く状態にあります。したがって当町に於ける水力地点の開発もこうした技術的理論の上になつた深い理解が広げられればその実現にも大きな期待が望めないであろう。

宝庫を拓き財源を豊にする 電源開発に理解を求めて (三)

（四）水力発電

日本は国土の割合にしては比較的水力資源が豊富であります。石炭、石油の資源にとほしいため需給のバランスを水力発電に依存して来たので、経済的に可成り有利とみられる水力地点は既にその大部分が開発されている。最近の調査によれば、日本の包蔵水力は過水式を除いて最大出力で約三、五〇〇万KW年間発生電力量は約一、三〇〇億KWと推定されております。

このうち最大出力で一、一五〇万KWは既に開発されており更に四五〇万KWが開発中であり昭和三十四年

度に於ける年間発生電力の実績は六一六億KWとなつてゐる。従つて未開発包蔵水力は二、三五〇万KWと云う豊富なものであります。これはあくまで常識を越えない補償物件等を対照にしたものであるが現時点に於ける電力コストに尚程遠いものであり、今後之等の残存水力資源を最大限に活用するため開発地点の特性を十分發揮させるよう、計画し悔いを後世に残さないよう、有効な開発を行なう研究が続けられており、最近においてこれからの水力資源の価値的有効利用をはかるものとして考え出されたのが過水式発電所の開発であり、昭和四十五年度までに約二、三〇万KWの建設計画が大幅に取り入れられてゐる。過水式発電は深夜の電力を利用して経済的に価値の高い状態で昼間時のピークの需用を賄うことを主眼としたものであり、現在開発されたものは数地点に過ぎない。全国的な過水式発電所地点の調査は現在まだ不十分であるが当町のように高い山が海岸に相寄り求むれば所要の貯水地点も得られると云つた利点は今後かなりの期待が寄せられるものと考えられる。過水式発電所の特長は先程も述べた通り深夜の余剰電力を動力として電力を生産させるもので自然の水量によるものでないから今日当町の行き悩んでいる水資源の多目的利用も自ら解消せられ、ただ地元の協力如何で容易にその実現が可能となりましょう。

筆者

議会副議長 酒井 栄
総開特委員長

（以下次号へ）

